

令和2年度 第2回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会

日時：令和3年3月5日（金）15時00分～17時30分

場所：オンライン開催（zoom）

出席委員：A委員長、B委員、C委員、D委員、E委員

1. 開会・挨拶

○評価委員会事務局（F）：定刻になりましたので、これから「令和2年度 第2回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」を、開催させていただきます。評価委員会事務局を担当しています（公財）生態系保護協会の F です。どうぞよろしくお願いいたします。今回はオンラインの開催ということで、コロナ禍の世の中全体が息苦しい中で、今年度については他にもこういう会議が度々行われていると思いますが、うまく音声等の不調が生じないような意見のやりとりができるよう、なるべくスムーズに進めさせていただければと思います。最初に、開会に先立ちまして早稲田大学総務部長の G 部長から、ご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○早稲田大学総務部長（G）：皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました、早稲田大学総務部長を務めております G と申します。本日はお忙しいところ評価委員の先生方のご出席を賜りまして誠にありがとうございます。御礼申し上げます。「早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」はご存じの通り例年 2 回行われておりまして、今回は所沢キャンパスにおいて 12 月 11 日に開催いたしましたので、本来であれば今回は早稲田キャンパスでご審議をいただく予定でありました。しかしながらまだ新型コロナウイルスの猛威が続く中で対面での開催は難しいのではないかとのご意見もいただきましたので、この度は初めてズームによるオンラインでの開催とさせていただきます。初めての試みで至らない点もあるかと思いますが、なにぶんご了承いただければと思います。

さて、新型コロナウイルス感染の感染状況が収まらず、緊急事態宣言がまた 2 週間延長されるということになりましたが、一部報道ではオリンピックについては海外からの渡航客を見送る方向で調整を行っているという報道も出ております。一方では、何が何でもオリンピックを開催するという雰囲気も漂い始めています。

本日の評価委員会は、2020 オリンピック・パラリンピック前の最後の委員会となりますが、どのような展開になっても対応できるように備えを万全にしておきた

いと考えています。

B 地区の取り組みに加えまして、確認書に基づいた A 地区における環境アセスメントにおける事前調整につきましても、今回ご講評をいただければと思います。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

- 評価委員会事務局 (F) : G 総務部長**ありがとうございました。今、お話しがありましたように、今日の議事の中には A 地区の照明に伴う環境アセスメントの今後の対応について、ということもございますので、B 地区のみならず A 地区の課題についても、屈託のないご意見をいただければと思います。本日のご参加は委員全員の方にオンラインでご参加いただいておりますが、オブザーバーの埼玉県と所沢市については議会中ということで、今回は欠席とのご連絡いただいております。早稲田大学の関係各者の方々にもご参加いただいているわけですが、最初に資料確認をさせていただきます。委員の方には直前になりましたが、資料を直接郵送させていただいております。それ以外の参加者の方は、データで必要に応じて見ていただければと思います。7 点の資料を事前送付しておりますので、今日は適時その資料を見ながら画面でもご確認いただきたいと思います。資料内容が届いているかの確認ですが、会議次第が、A4 で 1 枚あります。その次に、前回の会議議事録があり、これについての承認も後程行います。3 番目に、B 地区の自然環境調査室による報告書、こちらは H さんに作成いただいております。4 番目に、環境保全センターに提示いただいた水質の調査結果が、A4 で 1 枚あります。続いて、5 番目は生態系保護協会による B 地区自然環境モニタリング調査の報告書があります。6 番目に、A 地区の環境アセスメントの経過報告資料となります。最後に、オリンピック・パラリンピックの延期に伴う対応方針として、A4 で縦 1 枚の資料をお送りしています。委員の先生方、資料の過不足などありますでしょうか。ご意見いただく前の説明の際に、画面で逐一提示していきますので、送付資料がお手元のない参加者の方は画面を見ながら説明を聞いて頂けたらと思います。それでは、議事次第に従いまして、これ以降は A 委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。A 先生どうぞ、よろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

- A 委員長**：委員の皆様、早稲田大学の関係者の皆様、事務局の皆様こんにちは。本日は、よろしくお願いいたします。それでは早速、議事次第に従ってご説明を順次お

願いいたします。まずは、前回の議事録の承認をよろしく願います。

○**評価委員会事務局 (F)**：議事の 1 番目の議事録の承認についてですが、事前に委員の方に送付して内容のご確認をいただいております。今回直前になったため、まだ見きれていない方もいるかと思いますが、現時点で 1 点だけ B 委員からご指摘をいただきました。議事録の 1 ページ目、上から 2 行目の前回の委員会の場所についてですが「早稲田大学早稲田キャンパス 9 号館」とありますが、「早稲田大学所沢キャンパス 9 号館」と誤りがありましたので、修正いただけたらと思います。他については、事前にご連絡等は受けていませんが、何かございましたらご意見を願います。

●**A 委員長**：委員の皆様、いかがでしょうか。今の説明で、B 委員のご指摘以外で、今お気づきの点ありますでしょうか。よろしいですか。もし事後でもお気づきの点ありましたら、事務局にお伝えいただけたらと思います。

●**早稲田大学自然環境調査室 (H)**：委員会の場所のご指摘についてですが、「所沢キャンパス 9 号館」ではなく、「100 号館」になります。

●**A 委員長**：事務局、場所の修正よろしいですか。

○**評価委員会事務局 (F)**：はい。H さんからご指摘いただきましたが、再度繰り返します。場所が「早稲田大学所沢キャンパス 100 号館」に修正したいと思います。

●**A 委員長**：はい。よろしく願います。他にご指摘がなければ、ご承認をいただいたということで、後日何か問題がありましたら、ご連絡していただくことにいたします。それでは、2 番目の B 地区におけるモニタリング調査の結果について、自然環境調査室と生態系保護協会の両方から説明を順次願います。

(2) B 地区におけるモニタリング調査の結果について

1) (公財) 埼玉県生態系保護協会 (I)：説明省略

【質疑応答】

●**A 委員長**：H さんのご説明に入る前に、今のご説明について、質問と最後の方に今後の予定についてのお話がありますので、その辺についてのご意見ありましたらよろしく願います。いかがでしょうか。1 点確認したいことがあります。よろしいでしょうか。資料 16 ページの「希少植物の出現状況の経年的な変化」の表がありますが、この中で以前の会議でも議論がありましたが、改めて確認までに伺いたいのですが、2013 年あたりから 1 年生草本の希少種、5 種類の出現が見られなくな

っているようですが、原因としてはどのようなことが推定されるのでしょうか。

○（公財）埼玉県生態系保護協会（I）：2013 年までは 6～7 種類くらい確認されていたのですが、表の下の方を見ていただきますと記してありますが、耕起や掘削という作業が、2010 年度以降は行われていません。それによる、攪乱の影響が減少したというのが 1 つの大きな原因と考えられると推察しています。裏を返せば、攪乱が安定的な生育に必要な希少植物は、発生から 3～4 年間ぐらいまでは水分条件さえ適正であれば、ある程度維持できるということが推察されます。2016 年以降確認が減ってきましたので、それに伴い現在は主に表土を主とした攪乱試験をまた復活させて実施している、というような経緯があります。

●A 委員長：1 年生草本ですから、攪乱と共に供給がどうなっているかということの視点に関しても、試験の取り扱いや工夫を加えることが良いと思いました。

○（公財）埼玉県生態系保護協会（I）：おっしゃる通りだと思います。今のところ、掘削・攪乱などによってある程度は再生・維持が可能となっておりますが、種の供給との関係については、今後他事例等のデータの収集・分析を行いながら、湿性希少植物の再生・維持のメカニズムについて確認していけたらと思います。

●A 委員長：わかりました。先生方、ご質問、ご意見いかがでしょうか。特に、最後のページに、今後の予定についての取り扱いに関するご提案がありますが、この辺はご提案通りでよろしいでしょうか。よろしいですかね。それでは報告と提案の内容について、ご理解いただけたということで、今後の予定、取り扱い方法、考え方についても委員会として了解いただいたということにいたします。それでは、自然環境調査室からのご説明をお願いします。

●早稲田大学自然環境調査室（H）：はい、よろしく願いいたします。

●A 委員長：資料が事前に紙ベースで送付されたものでなく、最新版をメールで送っていただいた内容になるということですね。

●早稲田大学自然環境調査室（H）：そうですね。いくつか追加したものがございまして、画面と最終メールで送らせていただいたものを、ご参照いただけたらと思います。

●A 委員長：わかりました。よろしく願いいたします。

2) 早稲田大学自然環境調査室（H）：説明省略

●A 委員長：レベルの高いご説明ありがとうございます。勉強になりました。いかがでし

ようか、今のご説明について、ご意見、あるいはご質問を出していただけたらと思います。

○評価委員会事務局 (F) : A 委員長、その前に水質のモニタリングの結果についても、H さんからご説明いただいてもよろしいですか。

●A 委員長 : すいませんでした。B 地区の水質についてのご報告をお願いいたします。

●早稲田大学自然環境調査室 (H) : 水質につきましては、特に長年大きな異常値というのが見られていないものですから、今回から本学の環境保全センターの方からデータを提出してもらい、資料に基づき私の方で説明させていただいて、何か問題があった時のみ環境保全センターから直接来ていただいて説明する、という形式にしたいと思っております。

3) 早稲田大学環境保全センター (H) : 説明省略

【質疑応答】

●A 委員長 : ありがとうございます。それでは、改めてご質問、ご意見をよろしく願います。

●B 委員 : よろしいでしょうか。カヤネズミですが、やはり里山の草地の指標動物として最近脚光を浴びて、色々な場所で調査が進んでいるということで、B 地区の調査結果もすごく貴重だと思います。今回は衝撃的な結果で、全く巣が見つからなかったということですが、前回までの傾向から、営巣がなくなるということもあるかなとは思っておりました。原因が良く分からないということですが、先程 H さんも仰っていたように、今までの草地の管理が大きく間違っていたとは思いません。冬期の全面刈り取りを行ってからというものもありましたが、J さんの論文や直接 J さんご本人にお聞きしましたが、全面刈り取りは注意喚起のためにあのような書き方をしましたが、そんなに全面刈り取りによる影響を気にしなくてもいいようなことも言われていました。刈り取った植物を積んでおく、または一部刈り残しておくだけで十分越冬できるということで、全面刈り取りだけが巣がゼロになった原因ではないのかなと思います。そこで質問なのですが、冬期の刈り取りは、ヨシ原全体とミティゲーションエリアのススキエリアの両方について、どの時期にどのくらいやっていたのかをお聞きしたい。また、外部の原因ということで、実は飯能市の天覧入りで自然保護協会のモニ 1000 の調査としてカヤネズミを 10 年くらい調査しているのですが、偶然の一致か分かりませんが、今まで巣が 15 くらいは見つかっていましたが、

去年と今年は、春・秋の調査で見つかりませんでした。今年の秋、何回もやってようやく、しっかりとした巣ではないが 1 つ見つかり、生息はしているということではあったのですが、やはり原因は分かりません。そんなに管理を変えたわけではないのに、カヤネズミがいなくなってしまった。両方で共通しているのは、去年と今年の気候は同じくらいなので、気になるのはやはりアライグマ。アライグマがカヤネズミを捕食するかは、まだ何も知見がないので分かりませんが、可能性としてはあるのかなと思います。冬期の越冬数の確認というのはなかなか難しく、今までも行われていないようなので、この B 地区の越冬数の調査をやれたらとても良い思っているのですが、このように巣が 0 になり、今後どうなるかたいへん気になっています。長くなりましたが、以上です。

- A 委員長：ありがとうございます。カヤネズミの件、いかがでしょうか、今の B 委員のお話の中で気になることはありますか。
- E 委員：すみません、情報としてよろしいでしょうか。
- A 委員長：はい、どうぞ。
- E 委員：今年のカヤネズミですが、私に入っている情報では、緑の森博物館の大谷戸湿地では 2 つ、宮ノ入谷戸では生息地として 1 つしか巣が見つかりません。ということは、狭山丘陵全域でカヤネズミが危ない状況になっているという感覚を持っています。以上です。
- A 委員長：ありがとうございます。ちょっと心配な状況ですね。私は、B 委員から話があった、アライグマがどうなのかというのが気になるころなのですが。これについては、埼玉県生態系保護協会では何か情報はお持ちでしょうか。
- (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F)：はい。お話がありましたアライグマによる影響に関しての情報は持ち合わせていませんが、H さんからご説明のありました、カヤネズミの動向・動態については、生息地スケール、景観スケール、広域スケール、3 つの空間スケールで考える必要があるのではないかとのお話がありました。その埼玉県の広域的なスケールの中でカヤネズミがどうなっているのか、一昨年か今年のこの委員会にて、B 地区で減っているという報告があったため、私の方も気にかけて県内のカヤネズミの営巣の状況について色々と調べています。かなり広域的なレベルで減っているという報告が各地からあり、それがなぜなのかという話については、1 つは荒川や利根川の河川敷については一昨年の台風 19 号の大洪水の影響でハビタット自体が損なわれたという話があり、あるいは外来植物のアレチウリが広がり、ヨシやオギ、チガヤといった好適な営巣環境を劣化させているとの話もありま

した。埼玉県内規模ではありますが、広域的に減る傾向が顕著になっていると思っています。そういう中で残念な現状としては、2018年に改訂された埼玉県のレッドデータブックでは、カヤネズミが希少種から外されてしまったという、逆行している実態もあり、非常にこれから平地草原の指標種としてのカヤネズミの存在というのが、色々な意味から注目が集まると思います。広域的な状況と私が聞いた限りでの減少の要因については、こんなところとなります。

- A 委員長：ありがとうございます。必ずしもB地区の維持管理の今までの方法が大きく影響したとは言い切れないというような、そんな感じがいたします。おそらく今後、全体的な視点を含めて、さらに注意深く見守っていくことが重要になってくる、そんな気がしました。他はいかがでしょうか。C先生、早稲田大学ならではの研究のフィールドとして、見えてきた部分もあるというお話もありましたが。
- C 委員：ありがとうございます。私が、話を聞いていて印象を持った部分について、いくつかあるのでお話をさせていただきます。1つ目は、カヤネズミのところですが、インパクトのある出来事でした。今までこの所沢キャンパスB地区のカヤネズミに関しては、数がどう増減したかは調査していたが、現在は本当にいなくなってしまうのではないかという危険性が問われており、それがなぜなのか。増減のメカニズムは何かという視点では、これまで調査、研究が行われてきていないと思います。その辺のところにも少し焦点をあて、調査室だけでは難しいと思いますが、動物生態をやっている研究室とかがあると思いますので、その方たちと協力しながら、なぜそうなっているのか、の取っ掛かりを掴むことができれば良いのではないかと思います。2つ目は、所沢市の生物多様性戦略との連携の話があると思いますが、早稲田大学としてきた取組みは20年にわたる非常に重い、良いデータを持っているので、それをうまく活用しながら、所沢の生物多様性へ持っていくのが良いと思います。このような背景の中で、調査室に負担がかかってしまうかもしれませんが、一つ所沢での研究・調査で大事な部分としては、今までまとめてきたものを例えばホームページ上にこういう取組の成果が分かってきているんですよと公表することや、もう少し言うのであれば、ここまでは言えそうだというものを冊子にしてまとめ、早稲田大学の調査室ではこういう成果が得られており、今後こういうコントリビューションが期待されるというのを発信できれば良いと思います。3つ目は、オオムラサキとゴマダラチョウの長い研究で、いろんなことが見えてきています。Hさんがお話していましたが、かなりプレリミナリーな研究ではありますが、研究のシーズを私はこの中に見ていて、間違いなく研究になるという部分があります。そ

ういったところを、共同研究という形で、早稲田大学の中にあるこういう研究に興味のある方と協力して発信していくようなところへ発展させていくことが可能なのではないかと考えております。最後 4 つ目ですが、H さんが、水収支の研究を行ってきていて、非常に面白い、意義のある研究であって、特に 1946 年の上から見た植生データと比較しながら、どう違っているのではないかという方向へもっていく発想の仕方は非常に面白く、かなりオリジナリティのある研究になると思います。水収支に関しては、プロローグを見せてもらいましたが、樹幹部を測ることで蒸散量がどのくらいあるか推定したり、遮断蒸発量がどうあるか等、細かいところをきちっとやると非常に大変ですが、この研究テーマの中には、論文が 5 つ、6 つ書けるくらいのシーズが入っているので、ここは調査室が中心になってうまく進められるとよいのではないかと考えています。長くなりましたが、以上です。

- A 委員長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。D 先生は何かありますか。
- D 委員：はい、ありがとうございます。生態系保護協会と自然環境調査室の報告大変興味深く聞かせていただきました。私はもともと専攻が環境教育ということで、その点から 1 つ言わせていただくとすれば、得られた科学的知見を社会に有用な情報に転換して発信していくことが環境教育の役割の一つだろうと考えています。C 委員も仰ったシーズという言い方がありましたが、発信すべき社会的有用な情報が、今日の 2 つの機関からの発表の中にたくさんあると思っています。1 つ具体的な話になりますが、4、5 年スパンで考えていく課題として、外来種との付き合い方があると思います。今回の B 地区の報告は、里山環境を順応的管理をしながらどのように生態系を豊かにしていけるかが主要テーマだと思いますが、その中に外来種が入り込んでしまう。生態系保護協会からは外来植物の実態や現状の話がありましたし、自然環境調査室からのカヤネズミがいなくなったことと関連して、外来種が影響を及ぼしているかを示唆する話がありましたが、それらの外来種とどう向き合っていくのか、それから外来種の侵入が人為的な影響なのか、それとも流域の流れ等によって自然散布や自然拡大なのか、動物が拡大させているのか、B 地区への侵入の要因についていくつか仮説が立てられると思います。その辺りをすぐに来年教えてとはいかないと思うので、数年かけて、データを取りながら進めていくことが必要だと思います。そうした際にやはり併行してどうやって管理に活かしていくか、という恐らく学内や専門業社に任せるとのことだけでは困難なので、市民参加等も考慮した、社会的なシステムに転換するということが、重要になってくるのではない

いかと思っています。私はいつも論文にまとめろと言ってしまうので、それだけで終わってしまうことは言わないようにしているのですが、B 地区で生じている外来種問題を通じて、ここで得られた科学的根拠を社会に還元し、学校教育や市民参加による管理体制の充実によって問題解決を図るという、社会実装を伴う進め方ができれば、大変有用なことになっていくのではないかと思います。以上です。

●A 委員長：ありがとうございます。やるべきことがかなりありそうな、そういうお話でしたが、何か今の D 委員からのお話に関してリアクションありますか。よろしいでしょうか。E 委員、いかがでしょうか。何かご質問、ご意見、先程のお話以外があれば。

●E 委員：ありがとうございます。どうしても私たちの立場からは湿地の魅力というか生物多様性の重要性とか、その内容ばかりがメインにいつているのですが、やはり今まで蓄積されてきた研究成果をどのように社会に発信したら効果的かという課題もいつも思っていることで、中核的な役割を担う早稲田大学、自然環境調査室からの何かいいアイデア、先程 C 先生が仰いましたように、冊子にするのもいいですし、ホームページで紹介するのもいいですし、うまい方法で分かりやすく発信することが必要と思います。さっきのオオムラサキとゴマダラチョウの調査結果も、実はあのデータからものすごいことが考えられると思います。例えば、オオムラサキでいくと、生き残るのは 2000 分の 1 という数字が出ているのですけれども、卵から 2000 分の 1 の割合だと、極端にいうと越冬幼虫が木に登れない数は 40%あるのだと、そういう原因もあまり研究されていない。私も聞いただけで、その辺分らないのですよね。チョウはグレデートします。オオムラサキは 4 齢です。ゴマダラチョウはたくさんあって、年 2 化ですから 2 か月で完結するわけですよね。木に登って大体鳥の餌になってしまうことが多いとされているのですが、具体的にどのくらいの数が保証されるのだろうと、そういうことを考えていると、やはりやることがいっぱいあるなと思いました。チョウに限ってしまいましたけど。そこに K さんが聞いているのだから、少し協力してもらって一緒にやりたいですね。

●A 委員長：ありがとうございます。時間も押してきているので、一応モニタリングの結果のご説明に関しての内容は、これで一区切りといたします。どうもありがとうございました。3 番目の議題にあります、A 地区における照明施設環境対策と今後の対応について、ご説明をお願いいたします。

○評価委員会事務局 (F)：はい、今日の議事では最後になりますけれども、A 地区の照明環境対策ですね、冒頭にも G 総務部長からお話いただきましたけれども、オリン

ピック・パラリンピックが夏に行われるということになりますと、今回の評価委員会としては事前の最後の場になりますので、そういった意味でこれまでのご報告と今後の対応についてのご議論をいただければと思います。

(3) A 地区における照明施設環境対策と今後の対応について

1) (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F) : 説明省略

【質疑応答】

- A 委員長：ありがとうございました。ちょっと確認なのですが、最後とその前の図面を確認すると、そのアカマツを植栽した場所というのは、在来の幼木が全くないところだったということでしょうか。
- (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F)：はい。この赤い、図面が小さくて申し訳ないのですが、赤い点のところはマーキングして実生から育った在来の幼木が育っているところです。「アカマツ植栽試験区」というこの区画については、以前ニセアカシアやオオブタクサがかなり重点的に茂っていた偏向遷移のところ、在来種の実生とかがない部分について、試験区として植栽をしています。
- A 委員長：所沢市による除草管理の写真がありますが、在来幼木のマーキングしたものを避けて除草をされたというのは、この全域、赤色の点斜線で囲まれたところ全域が除草されたと解釈してよろしいでしょうか。
- (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F)：はい、そうです。北側の方、上の方は、標高のライン近くまで法面になっているわけですが、ここについても機械を入れて外来種等の除草をしたことを資料化しています。
- A 委員長：ありがとうございました。ご質問、ご意見どうぞお願いします。いかがでしょうか。こういう形で取組みが 1、2 ページのところに内容があって、3、4 ページで図面になっています。ここまでは、よろしいでしょうか。そうしましたら、ご理解いただいたということで、次に進めたいと思います。
- (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F)：今後の対応方針について、確認させていただいてよろしいでしょうか。
- A 委員長：はい、どうぞ。
- (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F)：今、それでは画面の方に資料を出しますけれども、今後コロナの状況がどのようになるか不明な現状なものですから、オリンピック・パラリンピックについては冒頭もお話ありましたように、明確に中止というこ

とはなかなか想定しづらい現状があるわけですが、一応昨年の段階で延期されることを前提として、その場合にこのアセスメントをどうするかということで、関係主体間で一定の合意がされている背景があります。それについてご説明をさせていただいて、評価委員会としても特にご意見等あればお伺いできればということです。

2) (公財) 埼玉県生態系保護協会 (F) : 説明省略

【質疑応答】

- A 委員長：ありがとうございます。これから流動的な状況下で、それぞれどういう状況であればどうするかというご提案と、それから最終的にトータルで 5 年間の期間でアセスメントを実施するという内容の説明でございました。ご意見いかがでしょうか。
- B 委員：では、よろしいでしょうか。
- A 委員長：はい、どうぞ、B 委員。
- B 委員：オリンピックの行方次第で、今後の対応をどうするかということは、今までの経緯でやむを得ないと思います。ただ、ここの葛入湿地も B 地区の三ヶ島湿地と同じ砂川堀の源流域で、こじんまりとした湿地ではあるものの、今回の調査で貴重な場所であるということが改めて確認されました。早稲田大学さんには、今後のこの湿地の保全、あるいは教育的な活用に関心を持っていただいてですね、調査は一応ストップしても、定期的に何年かおきに私たちと一緒にになった調査の実施をお願いしたいと思います。また、F さんの方から説明があったように、上の方の墓地後の裸地をですね、市民と行政それから保全団体が協働の場として再生に動き出した場所でもありますので、環境教育的な意義も大きな場所だと思いますので、早稲田大学としても積極的な協力をぜひお願いしたいと思います。以上です。
- A 委員長：ありがとうございました。照明アセスメントの問題とは別としても、この取り組みの意義を考えどう対応するべきかをお願いということですが、何かこれに対して早稲田大学さんとしてのコメントはございますか。
- 早稲田大学自然環境調査室 (H)：A 地区の湿地では今回哺乳類を初めて調査したのですが、キツネがいたり湿地奥では希少な鳥類、特に地上を走るような鳥は普段なかなか見られないので、そういった種が撮影できる貴重な場所ということで、このモニタリングの調査は引き続き継続していければ、と思っています。ホタル調査と同じ

ように 5 年 10 年とデータを蓄積していくと、環境の変化を表す傾向が観察できる
といった価値も出てくるというように思います。

●A 委員長：非常に貴重な動画を見せていただきましたけども、明らかにキツネだと確認
ができるのは、あの場所の自然環境の質の高さを物語るものだと思いますので、大
学のご協力をよろしくお願ひしたいと思います。他はいかがでしょうか。

○（公財）埼玉県生態系保護協会（F）：もう 1 点だけ、補足でよろしいでしょうか。

●A 委員長：はい、どうぞ。

○（公財）埼玉県生態系保護協会（F）：今、B 委員から今後については幅広くあそこの保
全や活用をできれば、というご意見がありましたけれども、先程話した忘れてのです
けれども、昨年度所沢市が条例に基づく「里山保全地域」をこの地域を対象に指定
したものですから、それに伴って、市の条例に基づいた、「三ヶ島 2 丁目里山保全
地域保全管理計画」というのを、市が今年度作成しております。その中で、もち
ろん市の行政計画に該当するものですから、多様な主体、大学も保護団体も、ある
いは一般市民の方も含めて、この場所の自然をよりよく保全し、あるいは再生し、
それを環境教育や自然とのふれあいの場に役立てていこうという方向が出ていま
す。今後は、市の方が今日残念ながら来られていないですけれども、この保全管理
計画が基盤となって、皆さんで取組める条件づくりが可能になるのではないかと
いうことも申し添えさせていただきます。以上です。

●A 委員長：ありがとうございます。所沢市の今後の対応をご紹介いただきました。いか
がでしょうか。委員の皆様方。特にご質問、ご意見はなさそうでしょうか。ありが
とうございました。それでは、この A 地区の件に関しても、ご了解いただいたとい
うことといたします。それから、最後になりますけれども、その他で何かございま
すか。

○評価委員会事務局（F）：事務局の方からは、毎回オブザーバーとして県と市がご参加い
ただいている時はコメントをいただいているのですが、今日は欠席ということだ
ので、その他のところについては特にありません。

●A 委員長：了解しました。それではご用意いただいた議事内容に関しては、全て議論を
して確認ができました。進行を事務局にお返しします。ご協力、皆さんありが
うございました。

○評価委員会事務局（F）：A 委員長をはじめ各委員の皆様、ご議論いただきましてありが
うございます。また、早稲田大学の関係者の皆様も、ご参加いただきましてあり
がとうございます。オンライン開催ということで、なかなか不都合なところもあつ

たかと思いますが、この委員会で確認すべき点は全てご了解いただけたと思います。コロナの状況が本当にこういう不透明な中ですが、オリンピック・パラリンピックも含めて次回の評価委員会までに、特にアセスメントとの関係では、オリンピックが行われた場合には、今まで検討してきた対策の成果を活かして、影響の低減・回避に向けて、形が現れる段階になると思います。そういったことも踏まえて、次回の評価委員会ではその結果等も含めた一定の議論もできるのかなと思います。今日はいろいろご意見いただきまして、この結果を次に繋げていけたらと思います。どうも、長時間にわたりご議論いただき、ありがとうございました。これで、評価委員会を終わらせていただきます。